



貞介問答

第五冊







下向を耻とせ、世後を抱て、道心の會一の事  
 事と始して、そのいりこなく、不畜まきしもの  
 河も予唯一の道より、引て演推て答を  
 小子側へ傳く。其問答を菅城子人命に、猪  
 面記。貴介問答し、名げふ也。誠明哲  
 の人嘲らん。豫めさるるも、吾いし  
 き人わらば、玉を磨の助もや。なるんあり。  
 付、元禄元年十月十有五日、洛ら吉隠子叙

貴介問答目録

卷之一

- 一世渡の事 初丁メ
- 一生受用の心得の事 三丁メ
- 一家と有の道ゆ事 六丁メ
- 君長民の三以て、天下と定士農工商 九丁メ
- 四を以て民と別事 九丁メ
- 聖人愚人君子小人別如何と云 十一丁
- 古も今と徳わらん必貧ゆらん人 十五丁
- 必富ハハ云事 十五丁

貴介問答目録

一三國者より金銀と万寶の第一にして同珍と

とふりゆめり云事

一有道の君子は行ふに如何して後世と事

一君子抱用撃折の賤職は處して耻はら

ざる如何と云事

卷之二

一神道の大意と聞と云事

一上古の神といひて人といふはるるして神と名事

一神の祈る二一則實々則道と云はるる云事

一天人合一の道は事

一中實受用の事

一吾国と日軒と號とふら如何と云事

一天照太神の御出生并天とと治る事

一乙照太神天上と治る時中津國何の神治也と

云事并八雲折神詠の事

一大己貴の神中津國と經營したる事

一大己貴治る事天孫降臨したる事

卷之三

一神武天皇より上下共人となり如何と云事

一神武天皇御血ぬりて戦はるる事

一 吾朝一ツ異祀を征く言と上る事。何と

一 在り始せと云事

一 景行天皇熊襲と伐給事

一 日本武尊東夷征伐如何云事

一 神功皇后三韓と退治如何云事

卷之四

一 異朝の經典如何して吾朝入やと云事

一 佛法吾國入る何の世何の世より来やと云事

一 聖徳太子削守屋大連と戦はるやと云事

一 佛法天下の施せたる事何の世始やと云事

一 聖徳太子十七條憲法の支

卷之五

一 神國に佛法を施行する如何と云事

一 道々一ツは吾朝の神といふ。震且ハ儒道

といひ。天生ハ佛法といひ。三ツハ如何と云事

一本心と吾朝の神といひ。震且ハの徳といひ。

天生ハ寂滅と立る如何と云事

一 吾國の神必く神道廢て佛道が如何と云

一 兩部習合の神道如何と云事

一 神儒佛の三教共皆治世の如何と云事

一 古の仙人は云々ありて中古より至る仙人を

よる如何の事

一 大道の和ら。奇妙の云々ありて

云事

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

貴介問答卷之一

○元禄元年初の夜の月静に気藏の天

付節。貴介公子草廬と有る古今の事

諸つもて問曰予志學の年より経史子集

よ心成る。壯志の道よ志わさる。世渡

抱て道のを念をいりて念らんや

答曰世渡の外は道のみならず人の心を渡

もまは心よ夫なきありて漢和の典籍の勸善懲

惡の道より皆ふれ理をよめ。放心して見

貴介問答

孟子曰。夫古之於心也。天也。夫大人之心。道自明也。  
孟軻も子問の道他なり。其故必成水の事と云つ  
ま世渡り。世を八間渡り主として死に候ふ。先  
と送る。譬へ舟に乗て此岸より彼岸まで渡りし  
天子より庶人まで。天と云く。昼夜と候まら  
道自行も。衣食住仰りて。中心を安樂し。養生と世  
渡り也。天子より治世といひ。諸侯より治國と  
いひ。庶人あり。有家あり。極道の心。昔異朝  
の堯王允執。其中と舜。授る。舜其統  
と継ぐ。人心惟危。道心惟微。惟精。惟一。允執

其中。禹は授給也。堯の一言。道と説く。人の至も  
をせり。至る。極なり。舜。授る。二言と  
以ての。堯王一言と明。堯と。朱文  
公の。二言。道の心。人の心。心  
理と氣と合一ありて。質と成る。人の心と氣と  
云。道の心と理と云。理の氣と流。質と統  
これ也。これ。物と理と先よとれる。私欲。質と奪  
也。氣と先よとれる。私欲。質と奪也。私欲。質と奪  
こま。氣と奪。奪の。理と成て。心成  
失ゆ。人の心。惟危といひ。私欲。氣と奪。心

貴竹明





◎ ぼして道自行。これ敬の道。入の始。して道と  
成の終也。曾子の三者といふ家は。敬の事なり。  
敬て之を得人。凡の帆と牽て渡りし心。  
廣體胖。是を命。有ひ道と行と云。之を得る人の  
雖凡の帆と捲く渡りし心。若侍危。是を命。  
背き道をとるもと云。夫が人の。惡凡を避て渡り  
し。道と害む。舟と覆むと命と。敬て道なりと  
云。れ也。然則。夫を得る道の自行。何世渡り  
抱く道自行。しんをや。  
○ 問曰。平生受用此心。如何。

答曰。敬と實と。友と樞との三と肝あり。静  
の行狀。先静かりし。君子重かり。心と威あり。  
君子重かり。心と威あり。君子重かり。心と威あり。  
君子重かり。心と威あり。君子重かり。心と威あり。  
君子重かり。心と威あり。君子重かり。心と威あり。  
君子重かり。心と威あり。君子重かり。心と威あり。  
君子重かり。心と威あり。君子重かり。心と威あり。  
君子重かり。心と威あり。君子重かり。心と威あり。  
君子重かり。心と威あり。君子重かり。心と威あり。  
君子重かり。心と威あり。君子重かり。心と威あり。

賢問

四

松竹

迷て悪と好善を好むと。自謙といふ。自欺といふ。則固くすと云く。敬めり人の自謙と好むを人の自欺と陷故。小人の間居して不善と好む。至ると云く。君子と人く。其不善と捨て。其善と著ると。人の己と人る事。其肺肝とらん。あつてか。何の益なり。是故。君子は隠し見いあつて。微より顕にあらして。其睹むと戒慎。其用は心と恐懼。是は其徳と慎と云く。子思は説く。天照皇太神の宜く人の天の賜也。須く静謐して心常とく。心神と傷く。かると云く。

神勅也。静謐と敬の事也。内外静經て。清淨なり。敬とく。則神留座と。心神と傷く。かると云く。必不敬。あつて心神の傷。天の賜と失く。かれば御。敬也。然則静うして。敬は道に入。心也。敬は心。心は主とせり。孔子も忠信を主とせり。忠信と。ハ。夫の事なり。内は實と忠。外は行と信と云。主と云く。亭の主の事を云。心の主と云く。則神明の御正体と。神の吾心あり。給へ。天地と徳を並て人と云く。若君心。亭主をまはる。譬は殿。楼阁と云く。家と云く。狐狼と云く。栖と云く。

貴介問答一

五

神明去て人の人、道を分るが狐狼の所  
業をかり故も人面獸心と戒む。畜生と云ふは  
孔子も人而信なく。其可なりと云ふは、大車輓  
なく小車輓なく。其何を以て行哉とのるは、  
輓輓なくいぎとて牛馬も車を駕して器也  
此意かき付は牛馬も架とて人車は名づる  
と云ふや。人の人、車はくびきのみ。若信か付  
る。人といふもいぎとて。故又友を選舉、  
と云ふは、友ハ仁を輔く。且吾僻を改むと云ふは、  
道を輔合が友の法也。初もの悪友は從へ

方圓の思は從とて悪友は從へ。惡くなり。吾友  
は從は善とかり也。孔子の悪友は言は及も。己は  
自を友とてとるか。己より若くは若きを  
友とてか。おれこのる。若くは若きを  
捨る。のるは、流衆とて。仁は、  
己より賢むを親て心の友とせよとの  
也也。孔子の門弟子。子夏子貢とて十哲中一人也。  
孔子は吾死の好子夏。徳日。益子貢は徳日。損  
の。己より賢む如何。同は。孔子曰。子夏の己より賢む  
は。己より賢むを好子貢は己より賢むを好

費小問答

〇

○答ふ多し。人の自好は、此の國を好む也。譬は丹を  
藏と爲す。自赤漆を好むは、自黒。善人と爲すは、  
蘭の室に入らば、久しと好む也。同は、人の香自  
く好むは、不善人と爲す。鮑魚の肆に入らば、久し  
臭く好むは、人の自臭と爲す也。故は、其子と爲す  
とんが、其父を視る。其人を好むとんが、其友と爲す。  
其君を好むとんが、其使と爲す。人々を好むは、其地を好む。  
人々を好むは、其地を好む。古くは言傳あり。此、三つは、  
聖人の受用ありて、畢竟は實と爲す。保と爲す。人心得  
○問曰、家と齊ふの道は、何

○答曰、天子は、下と以て家と爲す。諸侯は、國を以て家と爲す。士庶人  
は、業を以て家と爲す。是、齊家治國平天下の道也。皆、  
以て治也。其、父と子と、別ゆ。天子は、下と平む。仁は、止む。諸  
侯は、國を治む。義は、止む。士庶人は、家と有る。信は、止む。古くは  
いふ。仁は、中体の始。心の徳愛の理。物とあり。人々を  
事と爲す。天子は、下と一家と爲す。仁は、中道の  
言は、及ぶ。人々を禽獸草木と爲す。過不及は、中道は、  
叶ふ。如く、廣く愛するは、先老人を多く人々を愛す。惠は、  
多く人々を愛す。徳は、感ずる。孝と興と。長者と長者と愛す。  
多く人々を愛す。孤幼を恤む。多く人々を愛す。慈心

費解明答一

○

わけて倍ぐ。此ニを行ふ。ト。て。六を祀禮を敗  
弱を捨る道なり。乃棧の政を治り。天下平を仁止  
と云。諸侯国を治り。義を止る。義は中体。終義は宜  
也。事は宜。天子仁なり。諸侯是仁  
の徳に従て義なり。義あり。事は宜く治り。義  
を以て。諸侯義あり。国民は之を知り  
て。又國は之を知り。國人は之を知り。よ  
孝の心を以て。君の事。是を忘る。梯の心を以て。長者  
を敬。是を礼と名く。仁の心を以て。衆を使。是を慈と  
名。此故に。朝廷は三公権を執り。九卿輔を列。群臣

礼讓ありて。治るべし。云々。是を義と止る也。  
士庶人信止る。士は奉公人。庶人は農工商の事。  
此四民は業を以て。家ありて。各家業を勤む。  
家ありて。信は中央の事なり。正直路私欲  
なき事と云也。士は智藝能徳を修む。正直  
路の信ありて。私欲なき人。進退も漸く。進  
む也。智藝能徳を修む。邪心邪路信なく。私欲  
なき人。進退も速く。退む也。百姓職人商人  
も。無能無智。信なき人。己の業を勤む。其  
事鍛練深かりて。遊山玩水。色欲貪欲。弱也。

貴小問答一

自福フク来キり其家ケを興キり信シん人ニ己業ニ忘ルり  
其事コトを假カ練シ浅ク遊山ユウサン飲水インスイ欲ヨク貪欲コンヨク溺ニ自禍ジカ  
来キり其家ケをホス七シチ也ヤ四民シミン之ノ此コトも亦モト申シ信シ母  
止ト也ヤ又マタ君キミ仁ニわりて臣シ義ギなり臣シ義ギなりて民ミン信シ  
あり古コ今イマ不易フイキの道ミチ也ヤ仁ニ陽ヨウ義ギ陰イン陽ヨウ合カ一イツの道ミチ申シ  
一イツ也ヤ皆ミナ中道チュウダウ也ヤ叶ハ民ミン信シなりて天下テンカ国家クワカ治チる也ヤ  
云クモ一イツ也ヤ仁ニ義ギ信シ統スて之ノ一イツ也ヤ仁ニ東トウ方ホウ  
本ホの義ギ西セイ方ホウ令メイ之ノ實ジツ信シ中央チュウオウ土ツの道ミチ也ヤ  
中央チュウオウの三サンを一イツとスれ也ヤ天地テンチの中ナカ体タイ也ヤ天子テンシも仁ニ  
いひ諸侯シコも仁ニ義ギいひ士シ庶人シヨも信シいひ位イ

と以カ分ク也ヤ天子テンシも庶人シヨに到イる也ヤ一イツ也ヤ  
欠カケても中ナカの云クモ也ヤ中ナカれおス也ヤ實ジツ外ゲも  
道ミチもなシ家ケを有ユる也ヤ有ユる道ミチを廢ヘイ也ヤ  
分ク国クニ治チの道ミチと推スシ廣ヒロ也ヤ一イツ也ヤ歸キ也ヤ  
家ケ治チ国クニ事コト天下テンカの道ミチ唯タカ實ジツ一イツ也ヤ  
○問ト日ニ君キミ臣シ民ミンの三サンを以カて天下テンカを定サめ士シ農ノウ工コウ商ショウの  
四シを以カて民ミンを別ワケく如何ニ也ヤ  
答コタ日ニ君キミ臣シ民ミンの三サンを以カて天下テンカを定サめ事コトこれ象シヤウ也ヤ  
士シ農ノウ工コウ商ショウの四シを以カて民ミンを別ワケく地チの數スウ也ヤ上天ウツテン  
日月ニツツ星セイの三サンを以カて天下テンカを定サめ君キミ臣シ民ミンの三サン

續前問答一

あり。地は東西南北の四の象を以て。民と士農工  
商の四の別也。凡そ地の有り。事理を以て立つ。故に  
君臣民の三。日月星の理。則て其事を治す。農  
工商の四。東西南北の理。則て其事を作す。又君の  
日の象也。日は太陽の精。陽徳を満ちて。形闕事  
なく。光天下を照し給也。君と名をなす。監觸の首  
伊特諾伊特冊尊。国土山川を制する。以ては宇宙  
を治す。君を尊と云ふ。天照皇と神を生  
給。此神陽徳を満ち。象を備はす。日神と名をなす。  
是吾國君之元祖也。伊特諾の事。伊特

冊の事を取ての義也。伊特諾、陽神。伊特冊、陰  
神也。陽神、いとさかむ。陰神、いとひそんで。陽  
る氣を施す。陰の氣をみけ。陰陽合一ありて。中徳備  
て形生と云ふ也。陰陽のさかむと云ふ。下畧して君と  
ハ洲と云ふ也。異朝、天と云ふ。地を母と云ふ。よ  
て。天子といひ。し地人を貫と云ふ。是也。天照太  
神。中体と云ふ。陰体陽徳の氣。さかむらて。ひ  
宇宙を照す。故に君と名をなす也。臣は月の象  
月は太陽の精。陽の耦生と云ふ。日は耦て生し給。理氣  
全備といふも。質不足ある。日ハ光を受て照す

貴月明



ふるよふら。盈星の象あり。日次ツギなるいなり  
て。いぐまを中界して月と川と。光天とと照スる  
も陰体イなり。夜を主。大滄海の潮の八百重。其  
うりりて。地の気を成ナスる也。臣も君も次人なる故  
也。其理則也。君の令を受堂上ありて。君も立ナシく  
政と輔。地下を主。し下国家の人の人ら道を行ユく  
り多故也。物をいう川也。民の星の象。星の陽の散  
也。とて。太陽の氣分散して星となる。是万珠と命  
ふの始也。いと通。草木の心より分を分  
火なる氣を穂と云。星も亦陽の心より分を分火

かか。とて。いと言。とて。り云。語の助語也。  
民も天子より分を分く。し下とて。ゆるゆるゆ  
民と云。民のたことと通。とて。命也。土の積の  
用を達。農の耕作の用を達。六天下の器用を  
達。高の貨財交易の用を達。天下国家の能  
富故也。四民を統く民と云。衆皇天も安在。天  
の分を守。四民州郡安在。天下を富。しる  
也。故も君臣民の三を分く。天下と定也。極民を土農工商  
と。四方。地の數。万殊。分なり。地。地の數。東西  
南北を分く。分。東西南北。天の春夏秋冬也。

及れその流川を生長收蔵也。人ハ生長收蔵の理  
と賦。地ハ生長收蔵入る代育して形を成万物生  
就して一年の流川治也。君ハ仁義礼智の理を  
一を思ふも民ハ仁義礼智の事を務てよは  
る也。故四となく民を分つ也。君臣合一して万機  
よく備り。天下国家豊饒して大要なりと云  
ふなり。是天人合一の義也。

○問曰。天より命あるは性善唯一か。に聖人なり。  
愚人とわかれ。君子とわかれ。小人とわかれ。如何  
答曰。夫聖愚君子小人の別あり。才と徳は二より別

出也。天より命あるは天子より庶人まで。神性  
惟一なる給へども。父母媾合の時程氣不同なり。  
生質も。精粹高厚長濁。表卑薄短の異。尊卑  
もわかれ。是より才徳の不同あり。才と徳との二も。  
性も情も。別出也。性ハ理也。情ハ氣也。司馬温公曰。  
聡察疆毅と才といふは。耳の同じ目も又事。早曉て  
何事も人の負ドこと。才も力も。是ハ氣進  
理進まが。生質ハ正直中。和と徳と云ふは。心正直柔  
和して。何事と人。讓を徳と名く。是ハ理進ぐ。氣  
進まが。生質ハ。才と徳の資。徳も才の帥也。

貴介同書



子受人多小人退き。小人不讓なりて。方枝よく存  
ひ天下国家平也。暴君ハ才と重りて。徳と重りて  
と。其人ハ徳も徳と重りて。政と授けり。然と  
其才より君ハ才を計く仕、其才と考て。誦朋友と  
更く欺き。民と權く恐しむ。故に民治まらば  
終る。君臣ニかり。朝廷ハ小人多賢人退き。天下  
礼なりて。方枝よく存り。天下国家乱也。小人賢君  
事安して。説くべき事也。孔子ハ君子ハ事ハ  
易して説くべし。説くは道を行くせむ。悦び  
とく。多分誦くべし。説くは道理ハ叶ふと悦ぶ。其人

小人多賢人退き

十三

と使よめて。器の量程も使よ  
事易き事也。小人ハ事ハ難して。説くは易。説  
むは道を行くべし。悦ぶ。多分誦て。氣ハ入  
と。理ハ入るべし。悦ぶ。其人ハ使よめて。備  
と求む。一人ハ事と重りて。小人ハ事ハ難  
古も今も。和漢も。天下国家と乱る。才徳兼之思  
人ハ外。皆才徳ハ勝つ。小人ハ事也。故に温公曰。察者多  
才ハ敬て徳を遺。古より。国之乱。臣家ハ敗子。才餘  
才ハ徳より。顛覆ハ到るべし。故に才ハ徳より。人  
多くあり。五胡ハ生質ハ入。無朝ハ氣質ハ性

小人多賢人退き

十三



小人用い悪の根となる。甘さの公私を興せ。小人私ら  
 珍とふふく。吾と以くあり。五常と背。五倫を敗るも。  
 只今銀と蓄。北斗とら。申る。集てもう。と思ひ。  
 是はたさ。人の富也。吾は必驕ると。心。始。其驕。か  
 わく。己と。て。人を卑。君は父子の忠。存。吾に  
 一。婦。声。羨。食。私。曲。の。者。長。幼。朋友。の。慈。信。よ  
 一。各。り。て。廣。度。枕。單。の。美。麗。の。者。よ。と。潜。下。と  
 慢。い。つ。も。心。驕。して。満。足。と。其。者。極。て。必。其。  
 則。自。禍。を。招。き。恥。を。忘。て。義。を。う。す。己。を。辱。て。人。  
 誦。或。を。奴。と。か。り。盗。と。か。り。或。は。困。は。辱。して。下

と敗。小人窮と。斯。濫。と。諸。悪。を。ば。と。  
 尚。書。天。作。孽。猶。違。一。の。自。作。孽。活。べ。  
 一。徳。を。失。ひ。力。と。せ。か。く。の。富。孔子。不。義。の  
 富。と。名。を。い。不。義。り。て。富。且。貴。吾。の。の。は。  
 一。の。根。の。あ。ら。や。君子。公。の。珍。と。心。の。心。  
 一。の。用。を。己。の。用。て。費。と。い。と。の。者。  
 一。の。始。己。の。費。を。人。の。驕。と。五。常。と。背。一。五。倫。と。潤。  
 一。の。君。臣。父。子。の。忠。存。よ。用。て。衣。服。飲。食。の。者。よ。長。  
 一。の。幼。朋友。の。慈。信。よ。用。て。度。量。の。華。の。美。麗。の。者。

上と敬下と情いつも心静にして満足し張子  
所謂富貴福澤ハ吾性と享し徳を興し力とを天  
是と祐て億兆の君子ハ是善の根ありや  
通たつて人はいふ通句下略の訓也老子ハ足と知と  
是富といふ心也富貴ハ素して富まると行貧賤ハ  
素して貧賤と行也古ハ虞舜歴山耕一河濱  
陶器一仰の心也  
孟子曰舜ハ糶と飯草と茹て  
將ハ身と終と  
天子と  
及て  
終

と被琴を鼓ニ女果固より有る富まると貧  
賤とつものいつと心とじ也時桃應問曰舜天子と  
カハ瞽瞍人を殺如何孟子答曰舜天下と棄  
み氏視し猶敵ハ足と棄が如し竊ハ負て  
逃海濱ハ道てゆると身と終まで欣然として  
と忘とわると負富ハ心止る只理義を樂し  
ハハ故ハ理義ハ吾心ハ悦し  
ハ口と悦し  
義を忘る富を貪ハ多キ  
陽虎曰富と  
仁と  
仁と  
陽虎

く。思やん徳わらん必貧徳なき人必富といふ  
 る。皆凡眼の見也。君子凡眼より不義の富とらん  
 く。ひく誠の復の虫の火入る。恐る。古  
 今河の棄て代洲に投つる。無上の尋寶を  
 う。捨て捨つる。不義の富を貪る。眼を  
 足ん。戒也。然る無心の人金銀を。金銀の富を  
 夫や。用を。信の富。君子は。一

○問曰。三國去。金銀と万寶の第一。同く孫  
 と。か。何

答曰。昔朝震且天皇。三國去。金銀と万寶の第一

りて同。珍とも。事。深遠の道理備まり。ま  
 金銀銅鉄の異なり。統て。よ。名づる  
 今。金。元。ち。て。生。は。ゆ。り。の。名。也。先  
 今。金。人。と。ん。中央。の。金。銀。ハ。白。銀。と。て。西。方。の。金。銅  
 ハ。赤。銅。と。て。南。方。の。金。鉄。ハ。黒。鉄。と。て。北。方。の。金。南  
 北。の。銅。鉄。及。其。外。金。の。類。わ。り。い。一。も。一。器。の。用。に  
 して。諸。事。の。用。に。し。て。の。中央。西。方。の。金。銀。白。銀  
 ハ。天地。の。間。の。諸。用。悉。く。造。事。に。地。の。大。徳。と。備。り  
 少。く。又。今。の。世。に。生。重。濁。有。淹。滞。て。地。と。あ。り。て  
 土。水。の。泡。潮。の。波。の。重。濁。と。り。と。り。と。謚。す。く。



地<sup>ツチ</sup>と云ふは其の土<sup>ツチ</sup>の元<sup>もと</sup>の色<sup>いろ</sup>なり。然<sup>しか</sup>れ天地<sup>てんち</sup>を黄<sup>わう</sup>  
 とす。天<sup>てん</sup>のちの土<sup>つち</sup>の色の黄<sup>わう</sup>と云ふは其の土<sup>つち</sup>の黒<sup>くろ</sup>中<sup>ちゆう</sup>  
 ちり白<sup>はく</sup>いらぬ出<sup>で</sup>をま<sup>ま</sup>と名<sup>な</sup>く。今<sup>いま</sup>ねどと云<sup>い</sup>ふと云<sup>い</sup>ふは  
 其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の黒<sup>くろ</sup>中<sup>ちゆう</sup>に開<sup>ひら</sup>けぬはねと云<sup>い</sup>ふ。す<sup>す</sup>と云<sup>い</sup>ふはす<sup>す</sup>  
 云<sup>い</sup>中<sup>ちゆう</sup>界<sup>かい</sup>也<sup>なり</sup>。子<sup>し</sup>より天<sup>てん</sup>気<sup>き</sup>の一<sup>いつ</sup>陽<sup>やう</sup>と云<sup>い</sup>ふと云<sup>い</sup>ふと云<sup>い</sup>  
 云<sup>い</sup>。則<sup>すなは</sup>ち夜<sup>よ</sup>あつと云<sup>い</sup>ふ時<sup>とき</sup>。黒<sup>くろ</sup>中<sup>ちゆう</sup>より白<sup>はく</sup>きつと云<sup>い</sup>ふと云<sup>い</sup>  
 申<sup>まを</sup>す。是<sup>こゝ</sup>は先天<sup>せんてん</sup>を祭<sup>まつ</sup>れりと云<sup>い</sup>ふ。五<sup>ご</sup>色<sup>しき</sup>の所<sup>ところ</sup>入<sup>いれ</sup>る地<sup>ち</sup>  
 の黄<sup>わう</sup>と云<sup>い</sup>ふは陰<sup>いん</sup>にして陰<sup>いん</sup>と云<sup>い</sup>ふは極<sup>きよく</sup>くは升<sup>あが</sup>る。是<sup>こゝ</sup>は陰<sup>いん</sup>中<sup>ちゆう</sup>の陽<sup>やう</sup>  
 と云<sup>い</sup>ふ。陽<sup>やう</sup>の陰<sup>いん</sup>より升<sup>あが</sup>て。天<sup>てん</sup>と云<sup>い</sup>ふは地<sup>ち</sup>を蔽<sup>おほ</sup>ふ者也<sup>なり</sup>。升<sup>あが</sup>ると極<sup>きよく</sup>  
 して陰<sup>いん</sup>と云<sup>い</sup>ふは陽<sup>やう</sup>中<sup>ちゆう</sup>の陰<sup>いん</sup>と云<sup>い</sup>ふ。陰<sup>いん</sup>中<sup>ちゆう</sup>の陰<sup>いん</sup>と云<sup>い</sup>ふ。陰<sup>いん</sup>中<sup>ちゆう</sup>の

陽<sup>やう</sup>と云<sup>い</sup>ふ。合<sup>あ</sup>つと云<sup>い</sup>ふは地<sup>ち</sup>の気<sup>き</sup>と云<sup>い</sup>ふ。其<sup>その</sup>地<sup>ち</sup>の気<sup>き</sup>のあつ  
 めと云<sup>い</sup>ふは黄<sup>わう</sup>と云<sup>い</sup>ふ。是<sup>こゝ</sup>は天<sup>てん</sup>に祭<sup>まつ</sup>れりと云<sup>い</sup>ふ  
 申<sup>まを</sup>す。中<sup>ちゆう</sup>界<sup>かい</sup>のちの五<sup>ご</sup>と云<sup>い</sup>ふは根<sup>ね</sup>也<sup>なり</sup>。黄<sup>わう</sup>と云<sup>い</sup>ふは氣<sup>き</sup>の陽<sup>やう</sup>と云<sup>い</sup>ふ  
 申<sup>まを</sup>す。金<sup>きん</sup>の中<sup>ちゆう</sup>界<sup>かい</sup>の土<sup>つち</sup>の真<sup>ま</sup>氣<sup>き</sup>と云<sup>い</sup>ふは其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の生<sup>せい</sup>氣<sup>き</sup>と云<sup>い</sup>ふ  
 光<sup>ひかり</sup>より云<sup>い</sup>ふは其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の真<sup>ま</sup>氣<sup>き</sup>と云<sup>い</sup>ふ。其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の生<sup>せい</sup>氣<sup>き</sup>と云<sup>い</sup>ふは其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の  
 又<sup>また</sup>と云<sup>い</sup>ふは其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の生<sup>せい</sup>氣<sup>き</sup>と云<sup>い</sup>ふ。其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の生<sup>せい</sup>氣<sup>き</sup>と云<sup>い</sup>ふは其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の  
 して。不<sup>ふ</sup>生<sup>せい</sup>不<sup>ふ</sup>滅<sup>めつ</sup>の体<sup>たい</sup>を受<sup>う</sup>け也<sup>なり</sup>。水<sup>みづ</sup>は入<sup>いれ</sup>る腐<sup>くち</sup>也<sup>なり</sup>。火<sup>ひ</sup>  
 入<sup>いれ</sup>る腐<sup>くち</sup>也<sup>なり</sup>。地<sup>ち</sup>一本<sup>いつぽん</sup>の氣<sup>き</sup>は其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の白<sup>はく</sup>金<sup>かみ</sup>の氣<sup>き</sup>  
 銀<sup>ぎん</sup>也<sup>なり</sup>。中央<sup>ちゆうちゆう</sup>の土<sup>つち</sup>。西方<sup>せいほう</sup>の金<sup>かみ</sup>。土<sup>つち</sup>生<sup>せい</sup>金<sup>かみ</sup>と云<sup>い</sup>ふは第一<sup>だいいち</sup>の黄<sup>わう</sup>金<sup>かみ</sup>也<sup>なり</sup>  
 其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の銀<sup>ぎん</sup>は水<sup>みづ</sup>は入<sup>いれ</sup>る腐<sup>くち</sup>也<sup>なり</sup>。火<sup>ひ</sup>は入<sup>いれ</sup>る腐<sup>くち</sup>也<sup>なり</sup>。是<sup>こゝ</sup>は其<sup>その</sup>土<sup>つち</sup>の氣<sup>き</sup>

貴<sup>き</sup>介<sup>け</sup>問<sup>もん</sup>一<sup>いつ</sup>

九<sup>く</sup>

受<sup>ウケ</sup>。百<sup>ヒャク</sup>珠<sup>シュ</sup>。一<sup>イツ</sup>。下<sup>カ</sup>。歸<sup>キ</sup>。乃<sup>ノ</sup>。義<sup>ギ</sup>。也<sup>ヤ</sup>。自<sup>ミ</sup>。其<sup>ノ</sup>。之<sup>ノ</sup>。と。あ。り。く。也<sup>ヤ</sup>。  
也<sup>ヤ</sup>。和<sup>ワ</sup>。乃<sup>ノ</sup>。之<sup>ノ</sup>。と。あ。り。く。也<sup>ヤ</sup>。乃<sup>ノ</sup>。と。り。と。道<sup>ミチ</sup>。也<sup>ヤ</sup>。夫<sup>ソノ</sup>。之<sup>ノ</sup>。と。あ。り。く。也<sup>ヤ</sup>。秋<sup>アキ</sup>。の。收<sup>シウ</sup>。  
斂<sup>シ</sup>。の。氣<sup>キ</sup>。と。て。春<sup>ハル</sup>。生<sup>シヨウ</sup>。一<sup>イツ</sup>。夏<sup>ナツ</sup>。長<sup>チヨウ</sup>。と。り。の。百<sup>ヒャク</sup>。物<sup>モノ</sup>。と。和<sup>ワ</sup>。と。て。收<sup>シウ</sup>。り。と。  
不<sup>フ</sup>。ゆ。く。也<sup>ヤ</sup>。白<sup>ハク</sup>。と。云<sup>イハ</sup>。也<sup>ヤ</sup>。是<sup>コト</sup>。よ。り。と。て。白<sup>ハク</sup>。銀<sup>ギン</sup>。も。天<sup>テン</sup>。下<sup>カ</sup>。万<sup>マン</sup>。物<sup>モノ</sup>。の。用<sup>ヨウ</sup>。と。  
收<sup>シウ</sup>。り。と。也<sup>ヤ</sup>。然<sup>シカドモ</sup>。中<sup>チュウ</sup>。央<sup>ヨウ</sup>。の。土<sup>ツチ</sup>。も。西<sup>セイ</sup>。方<sup>ホウ</sup>。の。令<sup>レイ</sup>。の。真<sup>シン</sup>。氣<sup>キ</sup>。凝<sup>キョウ</sup>。て。令<sup>レイ</sup>。銀<sup>ギン</sup>。  
と。な。る。也<sup>ヤ</sup>。天<sup>テン</sup>。地<sup>チ</sup>。の。始<sup>シ</sup>。終<sup>シュウ</sup>。も。土<sup>ツチ</sup>。令<sup>レイ</sup>。と。り。出<sup>デ</sup>。づ。く。也<sup>ヤ</sup>。と。下<sup>カ</sup>。の。万<sup>マン</sup>。物<sup>モノ</sup>。皆<sup>ミナ</sup>。  
金<sup>キン</sup>。銀<sup>ギン</sup>。と。從<sup>ス</sup>。て。揚<sup>ヨウ</sup>。と。り。た。り。也<sup>ヤ</sup>。と。無<sup>ム</sup>。上<sup>ジョウ</sup>。の。灵<sup>レイ</sup>。寶<sup>ホウ</sup>。が。り。故<sup>ユヘ</sup>。一<sup>イツ</sup>。三<sup>サン</sup>。  
國<sup>クニ</sup>。共<sup>ニ</sup>。一<sup>イツ</sup>。万<sup>マン</sup>。寶<sup>ホウ</sup>。の。第<sup>ダイ</sup>。一<sup>イツ</sup>。と。て。君<sup>キミ</sup>。子<sup>シ</sup>。小<sup>コ</sup>。人<sup>ニン</sup>。同<sup>ドウ</sup>。珠<sup>シュ</sup>。と。す。る。義<sup>ギ</sup>。也<sup>ヤ</sup>。其<sup>ソノ</sup>。  
無<sup>ム</sup>。上<sup>ジョウ</sup>。の。灵<sup>レイ</sup>。寶<sup>ホウ</sup>。人<sup>ニン</sup>。と。取<sup>トル</sup>。て。信<sup>シン</sup>。也<sup>ヤ</sup>。由<sup>ヨリ</sup>。道<sup>ミチ</sup>。の。信<sup>シン</sup>。堅<sup>ケン</sup>。固<sup>コ</sup>。な。る。人<sup>ニン</sup>。  
の。其<sup>ソノ</sup>。位<sup>イ</sup>。と。素<sup>ソ</sup>。と。て。行<sup>ユク</sup>。其<sup>ソノ</sup>。外<sup>ガイ</sup>。と。願<sup>ネガ</sup>。む。易<sup>ヤシ</sup>。と。た。り。く。命<sup>メイ</sup>。

從<sup>ス</sup>。申<sup>マカ</sup>。人<sup>ニン</sup>。の。富<sup>フ</sup>。貴<sup>キ</sup>。も。素<sup>ソ</sup>。と。す。る。也<sup>ヤ</sup>。有<sup>ユ</sup>。く。と。貧<sup>ヒ</sup>。乏<sup>ハツ</sup>。も。素<sup>ソ</sup>。と。す。る。也<sup>ヤ</sup>。  
哀<sup>アイ</sup>。と。夷<sup>イ</sup>。狄<sup>テク</sup>。も。素<sup>ソ</sup>。と。す。る。也<sup>ヤ</sup>。も。ほ。ろ。と。患<sup>ウヅ</sup>。難<sup>ナン</sup>。も。素<sup>ソ</sup>。と。す。る。也<sup>ヤ</sup>。と。憂<sup>ウヱ</sup>。と。  
天<sup>テン</sup>。の。も。怨<sup>ウヅ</sup>。と。人<sup>ニン</sup>。の。も。む。と。入<sup>イ</sup>。り。て。自<sup>ジ</sup>。得<sup>トク</sup>。と。び。と。云<sup>イハ</sup>。事<sup>コト</sup>。也<sup>ヤ</sup>。  
儒<sup>ニョ</sup>。も。君<sup>キミ</sup>。子<sup>シ</sup>。の。德<sup>トク</sup>。を。磨<sup>トゲ</sup>。ぐ。も。礪<sup>ウツ</sup>。ぐ。と。緇<sup>シ</sup>。も。す。ま。と。緇<sup>シ</sup>。も。緇<sup>シ</sup>。と。  
仏<sup>ブツ</sup>。も。佛<sup>ブツ</sup>。と。剛<sup>コウ</sup>。の。正<sup>テイ</sup>。体<sup>テイ</sup>。と。い。ひ。神<sup>カミ</sup>。道<sup>ミチ</sup>。も。天<sup>テン</sup>。の。瓊<sup>ジュウ</sup>。粹<sup>サイ</sup>。と。い。  
ふ。も。皆<sup>ミナ</sup>。天<sup>テン</sup>。地<sup>チ</sup>。純<sup>ジュン</sup>。粹<sup>サイ</sup>。中<sup>チュウ</sup>。体<sup>テイ</sup>。す。心<sup>シン</sup>。の。令<sup>レイ</sup>。と。人<sup>ニン</sup>。の。信<sup>シン</sup>。同<sup>ドウ</sup>。一<sup>イツ</sup>。  
か。り。故<sup>ユヘ</sup>。也<sup>ヤ</sup>。信<sup>シン</sup>。あ。る。人<sup>ニン</sup>。中<sup>チュウ</sup>。銀<sup>ギン</sup>。を。用<sup>ヨウ</sup>。と。い。福<sup>フク</sup>。あ。り。信<sup>シン</sup>。な。く。と。用<sup>ヨウ</sup>。  
と。い。福<sup>フク</sup>。あ。り。故<sup>ユヘ</sup>。財<sup>サイ</sup>。持<sup>チ</sup>。て。入<sup>イ</sup>。る。亦<sup>モト</sup>。持<sup>チ</sup>。て。出<sup>デ</sup>。る。亦<sup>モト</sup>。持<sup>チ</sup>。て。出<sup>デ</sup>。る。亦<sup>モト</sup>。持<sup>チ</sup>。て。出<sup>デ</sup>。る。亦<sup>モト</sup>。持<sup>チ</sup>。て。出<sup>デ</sup>。る。  
持<sup>チ</sup>。と。い。金<sup>キン</sup>。銀<sup>ギン</sup>。の。真<sup>シン</sup>。と。失<sup>シ</sup>。と。也<sup>ヤ</sup>。金<sup>キン</sup>。銀<sup>ギン</sup>。の。真<sup>シン</sup>。と。失<sup>シ</sup>。て。入<sup>イ</sup>。る。亦<sup>モト</sup>。持<sup>チ</sup>。て。出<sup>デ</sup>。る。  
亦<sup>モト</sup>。金<sup>キン</sup>。銀<sup>ギン</sup>。の。真<sup>シン</sup>。と。失<sup>シ</sup>。と。出<sup>デ</sup>。る。亦<sup>モト</sup>。持<sup>チ</sup>。て。出<sup>デ</sup>。る。亦<sup>モト</sup>。持<sup>チ</sup>。て。出<sup>デ</sup>。る。亦<sup>モト</sup>。持<sup>チ</sup>。て。出<sup>デ</sup>。る。

米売し集りて人々文王討て伐て鉅橋の粟と祭  
臺の賦をなす。又これ善を以て用ひて人民を悦  
し下治討王の無所以く用給へ人民を若  
り天下也。楚書曰楚周より以く寶とてふ。此  
推善以寶とていへり。善人の信を以て事  
と執人を云ふ。されど人銀の神に汚れぬ。用人の善  
不善よりして用乱く寶の真と失故に吾胡の神  
金銀とて。浮寶といふ。是此謂也。  
○問曰。有道の君子。道行がふ。何よりして世渡らんや。  
答曰。徳あり人己を修て何成行。古の法也。何を修らん

己が徳を以て人々を治らんや。己が徳を以て人々を治らんや。  
わび心育よ仁にけり故よ。君一人が道よ入仁を以て  
しるは。し下の人其徳と蒙て。仁政の行くと樂と  
と。是を待ての理也。然れ何いそ。己徳と卷て徳  
よ用こま。則行とつと。則卷て懐と。孔子も  
自つと。わらと。人々の君を誘ふもわら。己が徳のわら  
は。事と悲しものわら。己徳を以て。世に憤人  
君子も。哀れず。孔子も人々を以て。而を懐く。亦君子  
とわら。のるがや。叔占人も。何と遊。いらくわら。己が徳  
を以て。國土を離て海濱。澳嶺とて。送るわら。其徳

此地と居て。詔那と去て。治國を行くもわりの。其次は。
 避く。君の礼貌を愛して。去るもわりの。其次は。言と。
 君の言の不敬を去るもわりの。皆其の有徳の
 分限に従也。昔伯夷と。人孤竹の国の長子なり。
 父の志成して。兄弟固と譲り。仁者也。殷侯討の無道と
 及。隠居たり。文王の興伐聞く。行て帰と。武王
 紂を伐討。諫し。用が。首陽山。入て。
 死。此の其人。其君非。其民非。使と。治
 則進。乱則退。人也。伊尹。有莘の野。
 耕。也。殷湯。之。享く。聘礼。て。用い。夏の。

就し。桀王用し。わ。復湯。帰し。湯を相
 て。桀を伐し。以。此の。何の。事。也。君。非。何と
 使。て。民。非。治。も。亦。進。乱。も。亦。進。人。也。孔子。
 何。君。と。あ。ん。招。よ。應。て。仕。へ。ん。則。進
 止。へ。ん。則。止。へ。ん。則。進。止。へ。ん。則。進。止。へ。ん。
 八。則。速。也。十。則。速。也。七十。則。速。也。八十。則。速。也。
 九。則。速。也。十。則。速。也。七十。則。速。也。八十。則。速。也。
 孔子。の。心。持。て。ん。也。孟子。の。心。持。て。ん。也。
 乱。世。の。事。也。七。色。の。君。も。有。り。其。故。の。聖。賢。
 也。

物ありて招き應ずるは行かざる道と交する事  
若し人の若一人とも道なき善を行ふ天の命  
は必す申く。康誥曰。惟命常在于兹。善  
則得之。不善則失之。其若命。唯人  
和。多。少。付。必。然。なり。天。付。地。の。利。は。地  
地の利。人の和。さるべかり。付。若。邪。正。は。道  
か。と。招。け。付。出。が。た。道。也。志。の。成。る。付。去。る。道  
の道也。孔孟の言。と。お。し。も。付。の。至。る。道。の  
興。ぶ。也。道。興。ず。付。貧。し。樂。も。外。の。外。孔子  
も。蔬。食。と。飲。水。と。飲。肥。氏。曲。て。枕。し。樂。亦。其。中。

わりの不義にして富貴は我に於ては薄く、  
より。又。貧。して。樂。む。事。も。今。日。糧。と。他。わ。は。は。又  
道也。孟軻も。仁。と。貧。が。より。す。に。非。ど。付。り。て。貧。が  
為。よ。と。負。が。る。より。と。わ。の。尊。代。辞。して。卑。し。居。  
富と辞して貧し居。いつ。尊。と。辞。して。卑。し。居。富  
を。辞。して。貧。し。居。は。如何。と。わ。抱。關。斬。手。折。し。各。道  
り。抱。關。の。門。開。と。抱。て。出。入。の。吟。味。と。す。り。し。輕。手  
折。し。柏。子。木。と。打。て。寸。心。を。觸。し。也。然。る。吾。朝。の  
畜。や。い。ん。君子。の。素。飧。と。ん。て。糲。か。り。と。の。無  
差。し。恨。も。な。さ。ら。ず。の。ゆ。へ。此。下。無。以。て。糧。と。續。

費介問論

二二

ハ言へり。是は富と辞して貧乏を云ふ者。孔子は  
貧乏の秀才、采田の官に成り、委吏の糠粟出入  
の官、乘田の園圃、牛馬と牧する官など、至て  
微賤の事。いづれ程微賤も貧乏く先法と履くこと。  
小人の如く。不義の富とハ取らざる也。君子は元来理  
義めちて心樂しく、貧富は賤し心止む。いつも  
心静して富む。是は付て君子は己と修て付て待て  
○問曰。君子は抱關擊柝の賤職、度もろハ耻  
云とわらわらどや

答曰。小人の賤職は居ハ器量がよきゆへに必耻  
べし。君子は賤職は隠ハ付と待て、人ハ恥言へり。ど  
耻ハちとつて通はづか云通句ト畧ハ訓。人の  
人ハ道よづら云心也。韓退之曰。凡天地の間命ぞ  
ふくもれ、夷狄禽獸皆人也。又云。人の夷狄禽獸の  
主也。尚書云。人の万物の靈といふ。言はれし主  
云ハ。心ハ神明ありと云。神ハ仁ハ家ハ義ハ路  
ハ。孟子も仁ハ人の安宅也。義ハ人の正路といへ  
る。又羞惡の心ハ義の端也。義ハ耻と云。路ハ端  
ハ。路ハ行ハるも。端ハ人ハ如何して

賈子野言

二十四

善悪と云ふ人何ぞ以て清浄なり人清浄なり人  
神何の地よりまゝなり人何ぞ以て  
聖といひ主といふ人何ぞ深山の中より居る人何ぞ  
鹿麋と遊ぶ人何ぞ深山の野人何ぞ異人何ぞ幾希其  
一善言を聞一善行をえんて及て江河を次ぐ如く沛  
然として能禦一善行をえんて及て。舜ハ下も聖  
人之外の聖人皆ありまじきもの。賤山ぐらゐの言も  
一善言をえん。一善行をえん。江河の流も如く  
心骨より沛然と流し入る。外は禦し。是は耻を去り

と云ひ。理義を樂む道は入る。大聖は成る。況ん人耻を去るとん何ぞ人より人禽獸といふ。然る取の人。於る大なる殊。吾國よ。天の神国土の始。付も。恥を去る。伊特諾伊特丹尊大八嶋を生人。於る。漢洛洲を生る。此洲極て小國。同定も吾耻。かして。則漢洛と名づる。わらち。あつら。云々也。かの字と中男といふ。物で事物の始。生。とら。極て小。あつら。漢洛洲。出生。小。天理。恥。同。

穀入るるに恥はれを弟万歳とす。耻を知り、  
とハ神聖なるなり。恥を去るるは人の人たる道とす。  
とハ是吾朝耻を知り義を重んずること。是も興  
もり。人々至りて。吾朝の天子の天照を神の統と  
と。臣下と高皇産灵の統と夫と。古今に右将天皇と  
と。恥を知り義と尊しん。それ異朝とす。吾朝と  
義国といひ。又君子同と名も。伊弉諾伊弉冉の道也。  
也。又君子の富貴も。其道とて得るは處と。貧賤  
も其道とて得る去らるる也。孔子も信を厚く  
孝代好れを守りて道と善と。危邦に入らば。乱邦

ハ君と。天下道ありて。きハ見見と。るハ則  
隠ふ。邦道ありて。貧して且賤ハ恥ハ。邦道ありて。  
富て且貴ハ恥と。のこる。古人ハ賢人と漢と。  
是と守也。抱關斬却ハ常職ハ。故其福と  
くなく其任重く守。卷て懐ハ。身ハ。置所  
なり。何是と恥といふ人や。孔子の道行む人。桴  
来て海に渡といひ。又夷者も欲と。のこる。或  
耕一釣とす。或ハ山居一竹林。隠賢人。そハ。ハ  
となく。あ。卷て懐と。の道皆是耻と。ハ  
ハ。痛と。脅と。諂笑の小人。何の君と。迷



利リはス。高カク官クワン高カク位イ。今イマ留ルとシてハ威イとシてハ國クニ家カ  
 をホ振ルふト入ル。自ミ己ミのミみドと思ふル。口クハ行ク聲セ  
 聞クのコト過ス。君子クニノコ是レを耻ずク。天アメノ下ノのミ道ミチを行ハ。志シを立てテ  
 廣ヒロク居イ。士シのミ正セイ位イ。天アメノ下ノのミ道ミチを行ハ。志シを立てテ  
 得エてハ民タチは是をレ以テ志シを立てテ得ル。独ヒト其ノ道ミチをレ  
 以テ貴ク。貴クのミ淫インとシてハ人タチをレ負ツ。賤セニもレ移ル。志シを立てテ  
 以テ威イ。武ブもレ辱ス。士シのミ道ミチを行ハ。志シを立てテ大ダイ丈ヤウを立てテ  
 孟子コノもレ説ク。由ユへリ。

貴介問答卷之一畢

永茂

